

## ぶどう「サニールージュ」の 早期ジベレリン処理技術における適正着房数

### 【1 成果の概要】

- (1) 早期ジベレリン処理技術を用いて栽培した「サニールージュ」は、1新梢あたりの着房数を0.9房程度とすることで、着色が良く、糖度が17度以上の果房を収穫でき、1.7t/10a程度の収量を確保できます。
- (2) 1新梢あたりの着房数を0.6房程度とした場合と、0.9房程度とした場合を比較すると、果実品質に差は見られませんが、0.6房程度では収量が低く、生産性に問題があります(表1)。
- (3) また、1.2房程度とした場合では糖度の上昇が遅れる傾向があり、そのうえ、果皮が着色しないまま収穫期を迎える果房も多く見られます(図1)。

表1 1新梢あたりの着房数の違いが収穫時の果実品質等に及ぼす影響('19~'22年('21年除く)の平均)

着房数 (房/1新梢)	収穫日 (月/日)	房重 (g)	粒重 (g)	糖度 (Brix)	酸度 (g/100ml)	果皮色 (CC指数)	換算収量 (kg/10a)
0.6	8/28	396.4	7.9	17.6	0.59	5.7	1,086
0.9	8/28	388.6	7.5	17.5	0.56	6.0	1,724
1.2	8/31	382.5	7.6	17.3	0.57	4.7	2,107

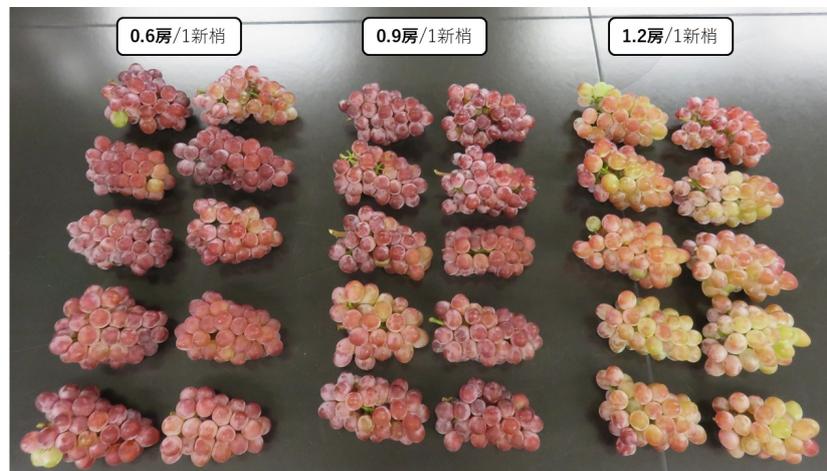


図1 1新梢あたりの着房数の違いによる収穫果房と着色程度(2022年)

### 【2 留意事項】

- (1) 本試験は、雨よけトンネル被覆の短梢H型整枝で行っています。また、主枝1mあたりの新梢数は、短梢栽培時における一般的な本数である11本とします。花穂は満開期に先端7cm程度に調整し、7月中旬までに摘房して着果量を調整しています。
- (2) 果房は、1房350~400g程度、果粒数50粒程度を基準とします。過大な房の着果は、同じ1新梢あたりの着房数でも、品質低下や着色不良を招く恐れがあるので、花穂整形後、花穂長が長くなりすぎないように適宜調整してください。
- (3) 本品種は赤色散光品種であり、着色には一定の日照が必要ですので、過剰な新梢数や副梢の過繁茂は避け、適正な棚面の明るさを維持してください。